

◎多世代交流の仕組みづくり事業

2月14日（金）に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第9回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、「新型コロナウイルス感染症にかからないために」をテーマに三育学院大学の学生、教員から手洗い、咳エチケットなどの講話を実施しました。総勢15名の高齢者と学生等が参加者し、基本的な感染予防対策について学びました。



▲一回のくしゃみで唾が飛ぶ距離について話している姿



▲マスクの正しい着脱について話す学生

今回は、話題となっている新型コロナウイルス感染症をテーマにしたことにより地域住民の反応もとても良く、学生と住民が自然に会話しながら基本的な感染症予防対策を学ぶことができました。

また、講話後は実谷区民館で育てているハーブティを飲みながら学生、地域住民と交流や新型コロナウイルス感染症の情報交換を行いました。

今回は平日開催であったため、地域の子供も達の参加がありませんでしたが、学生と高齢者が楽しそうに学びながら交流することができました。

今回、新型コロナウイルス感染症についての講話と情報交換を通じた交流を実施し、メディアなどで様々な情報が溢れている中、正しい情報を知ることや情報を共有し、不安を解消することも多世代交流の拠点の一つの役割だと改めて感じました。

今後は、季節ごとに地域の子供も達と高齢者が交流できるように、今までの学びを活かしながら地域が活性化するよう地域住民と三育学院大学と協働していきたいです。



▲談笑しながら情報交換している姿